

IV-JAPAN

NEWS 【NO.21】 2014.7.31 発行



ラオス事業20周年

去る 4 月 25 日に IV-JAPAN ラオス事業開始 20 周年記念式典を、事務所裏の職業教育開発研究所

(VEDI)の講堂をお借りして開催いたしました。当日ラオス側は Dr. コンシ―教育省副大臣はじめ、Dr. ポンメーク・ラオ日友好協会長、カムシン・ラオ日友好議員連盟前会長、外務省国際局ポーサイ副局長、ラオジャーナリスト協会ソムサヌック副会長、日本側は鈴木公使、JICA ラオス武井所長、日本人会中村会長等錚々たる VIP を始め、ラオスカウンターパートや日本の NGO の方々が 60 名ほど参加しました。式典の司会は IV スタッフ須田が務め、冨永の挨拶で始まり、1994 年 3 月にメコン川をフェリーで渡って、最初の事業は当時のカムシン駐日ラオス大使の助言でシェンクアーン県の山岳民族の職業訓練から始まったこと、と同時に、文化交流も両国を理解するには大切とのコンセプトから日本紹介、ラオス紹介が両国で 10 年間続いたこと等を話しました。

IV-JAPAN20 周年の歴史はパワーポイントで IV スタッフ大滝が流暢なラオ語で説明し、コンシー副大臣からは IV の職業訓練事業はラオスの経済社会開発に非常に貢献している、今後のさらなる発展を期

待するとのご祝辞を頂きました。アトラクションは前座 冨永のキム演奏、声楽家の伊藤彩香さんの「さくら・さく ら」「赤とんぼ」の独唱。ラオスの人気歌手アルーナが持ち歌と日本のジプシークイーンの「君の悲しみ」を日本語で歌い、最後にアルーナのリードで参加者全員で「上を向いて歩こう」と「ハッピーバースデー」を合唱して終了。その後のレセプションはIVのレストランと2階のオープンスペースに生徒手作りのブッフェを用意し、乾杯の音頭は鈴木公使と、スリカムコーンVEDI所長が行い、生徒も含めて総勢100人が遅くまでにぎやかに歓談しました。

会場はたくさんのお祝いの花で埋まり、手作りの温かいプログラムがよかった、木工事業の職員松本と山本は音響と会場を担当し、おりしも招へいしていたウドンタニ技術短大のトレーナーやコーディネーター5名のお世話はナーサイトン事業の飯村職員で、職員の連係プレーがよかったとうらやましがられました。在職日本人7名はNGOの中でも最大になります。

参加者には記念品として IV20 周年 T シャツが配られました。カウンターパートの VEDI には会場はじめ音響機器等すべて無料で提供して頂き、感謝です。職員も短時間に良く準備して式典を成功裡に終

IV-Japan 20th Anniversary in Laos 1994 - 2014 25° (74/2014

了することができました。式 典の様子はラオTVでも放 映されました。皆様に感謝と ともにご報告させていただ きます。

←ラオスの人気歌手



生徒手作りのケーキ→

目 次

1分・・・ラオス事業20周年 2分・・・木工職業訓練開始 3分・・・JICA草の根パートナー事業、N連事業 4分・・・ミャンマー視察

5分→タイニュース 6分→・・国内活動 7分→・・・奨学金ドナー紹介 8分→・・IV-JAPAN新理事・新顧問紹介

9分…千客万来 10分~11分…幸子のラオス便り 11分…報告&お知らせ 12分…寄付者一覧

ラオス・木工職業訓練開始

--JICA 事業「地域経済活性化特別枠」においてラオス青少年の収入向上のための木工職業訓練開始--



式典の様子。緑のTシャツ着用はIVスタッフ



訓練の様子(初級コース)

2014 年 6 月 23 日ヴィエンチャン市中心部より 8km 地点(以降 KM8)にある木工職業訓練所の修復が一部完成し、講義室の修復を残してはいますが、訓練所開所式と開講式を実施しました。この式典にはラオス教育スポーツ省を代表してウンペン学校制度外教育局副局長が、日本側は来賓に JICA ラオス事務所武井所長、日本大使夫人、日本の NGO も 5 団体が出席してくださいました。これに伴い、木エプロジェクト事務所も IV-JAPAN ラオス事務所の仮住まいから、23 日、KM8 に移転しました。本プロジェクトは初級コース 3 ヶ月、中級コース 3 ヶ月、上級コース 4 ヶ月で執り行う予定となっています。初級コースでは主に手加工技術の習得、家具作りの基礎知識教育を重点とし、修了後にはラオスの家具工場で即戦力として働けるレベルを、中級コース修了後は工場でのリーダーレベル、上級コース修了後では工場の起業が可能なレベルをそれぞれ目標としています。資機材が日本から届くのは 9 月になりますが、初級コースは手加工が中心になるため、従来の万能木工機で実施します。本事業の 3 大目標は(1)ラオスの無職および技能の無い青年に木工の技術移転を行い、彼らの収入向上に寄与、(2)ラオス人トレーナーの育成、(3)3年後のハンドオーバーとなっています。(1)について、今期の初級コースは 19 名 (内 2 名退学)の生徒が訓練を受け、日々技術習得に励んでいます。(2)について、生徒の内 2 名はカウンターパートである学校制度外教育開発センターから派遣されたハンドオーバー後のトレーナー候補です。(3)について、トレーナーの育成、ラオスに適した授業内容の精査、マネジメント等、細かくはたくさんありますが、3 年後のハンドオーバーに向けてしっかりと準備をしながら進めてまいります。





ラオスは暑い。 同じ亜熱帯な がら自宅のあ

から自宅のめるフィリピン・セブよりはるかに暑く、こ

ういう気候風土の中で暮らす ラオスの人々には敬服してい る。それでも良い汗をかけたら と木エプロジェクトに取り組 日々が続く。先は長いがそれも あっという間で、気合は入って も、どこまで成し遂げられるか どうか。私の持ち時間は少ない。

(プロジェクトマネージャー・松本重樹)

木工事業・現地スタッフ紹介



初めまして、 木工職業 カー のインストラ クターとしましましまし

た山本と申します。昨年一年間、 日本の職業訓練校で木工を学 んできただけの未熟者ですが、 その一年の訓練経験をラオス での授業に活かせたらと考え ております。生徒達と切磋琢磨 しながら、彼らの将来に繋げら れる様、日々活動していきます ので、宜しくお願い致します。

(インストラクター・山本 奮)





はじめまして。 5月より木エプ ロジェクトの コーディネー ターとして赴 任致しました。

3月までラオスで協力隊活動を していました。新しい環境のオ フィスワークと、まだまだ不慣 れなことがたくさんあり、日々 周りの皆様に助けて頂きなが ら過ごしております。ラオスの 木工業界で卒業生達が活躍す る日を楽しみに今後も頑張っ ていきたいと思います。

(現地調整員·**室井優香**)

ラオス・ヴィエンチャン職業訓練(縫製・調理・理美容)

—JICA 草の根パートナー事業—

【トレーナー育成研修:TOT】

2011 年 12 月から実施している当事業、現在 3 年目にはいりました。事業の目標のひとつである「トレーナーの育成」で欠かせないトレーナー育成研修(TOT: Training of Trainer)を 2014 年 3 月 11 日~31 日の 3 週間で実施しました。10 人が参加し、うち 1 名は家庭の事情で途中から参加ができなくなりましたが、残り 9 名は無事全員トレーニングを完了し、修了書を受領することができました。9 名のうち 2 名(縫製 1 名、美容 1 名)はすでにトレーナーとして勤務を開始しています。この TOT は事業期間中あと 2 回実施する予定です。



【OJT 主催の1日クッキングスクール開講】

5月23日に、0JT2にてラオス在住外国人を対象にした、ラオス料理教室を開催しました。メニューは牛肉のラープ(ひき肉にハーブを和えた料理)、タムマークフン(青パパイヤの辛いサラダ)、ラオスのデザートカオ





トム (ラオス風ちまき)。トレーナーと訓練生が講師となり、和気あいあいとした雰囲気の中、無事終了しました。今回初の試みでしたが、今後 OJT の収入源のひとつとして、このようなイベントをスタッフが主導となって企画していければと考えています。(現地調整員:大滝美佳)

ラオス・ナーサイトン職業訓練(縫製・調理・理美容)

—日本 NGO 連携無償資金協力事業(外務省) (N連)3年次—

ナーサイトン職業訓練センターでは、N連最終となる第6期の初級コースが6月30日に修了し、現在中級コースの訓練が行われています。中級はより高度な内容となり、技術の向上が実感できるので益々訓練に力が入ります。ところがナーサイトンの訓練生達は現在大変困った問題を抱えています。それは雨です。ラオスはこの時期雨期にあたりますが、ナーサイトンでは幹線道路以外は、ほとんど舗装されておらず、大雨が降るとそこら中に水たまりができ、また道もぬかるんでしまうため、バイクでの走行が大変困難になってしまうのです。そのためセンターへ来るのが遅くなってしまう訓練生もおり、遅れを補うために、休憩時間も訓練を続ける訓練生や、それをサポートするトレーナーの姿も見られます。

このように厳しい環境で実施されているナーサイトン事業にも良いニュースがあります。7月に入り、第5期生の就業および起業状況の聞き取り調査を行ったところ、75.8%が仕事を持っていることが分かりました。更に今仕事を持っていない理美容分野修了生6名の内の3名、縫製分野修了生4名の内の1名は1~2ヶ月以内に自分の店を開く予定です。この4名が起業すれば、就業起業率は80%を超えます。この成果は、現在大雨と闘いながら訓練に通っている第6期生達にとって、大きな励みとなるに違いありません。また8月には専門家の先生方による訓練も行われ、更なる技術向上が期待されます

本事業は残りわずか3ヶ月ですが、無事ナーサイトン郡教育課に引き継がれ、今後も継続的に職業訓練が行われるように、精一杯頑張ります。 (現地事業責任者 飯村 浩)



調理・スイカでフルーツカービングの練習



美容・ラオス伝統の髪型の練習



縫製・裁断等の練習

ミャンマー視察

★6 月 9 日から 1 週間、当会代表、木工プロジェクトマネージャー、 0JT コーディネーターの 3 名でミャンマーの視察に行ってきました★

今回の視察の目的はラオスで培ってきた職業訓練事業の経験をいかしミャンマーの人たちの役に立てることがないかを探しにいくことでした。

6月初旬のヤンゴンは一日中雨が降っており、ときどきバケツをひっくりかえしたような豪雨に見舞われるどんよりとした空でした。ラオスも雨季はたくさん降雨がありますが、ときには晴れ間も広がるので、ヤンゴンの灰色の空とじとっとした空気に気持ちもふさがりそうな気がしました。空港から街中までいくタクシーの車窓から見える風景の中で一番目にとまったのは、街中を走るたくさんの白い日本の中古車タクシーや中古バスでした。ヤンゴン市内はバイクの運転が禁止されており、人々はタクシーや公共交通機関を利用して移動するそうです。街中に人が溢れ、どんよりとした空とは関係なく、急成長していくこの国の活気を感じました。それもそのはず、首都ヤンゴンの人口は約695万人(JETRO、2013年)と言われ、ラオスの全人口約651万人(ラオス統計局、2012年)よりも多いのです。 さらに、ミャンマーの人達は道端でおやつを売っているおばちゃんでも英語でコミュニケーションがとれることに驚きました。もともとイギリス統治の歴史の影響もある

かもしれませんが、外国人とコミュニケーションを取るために英語を話すことに抵抗がありません。ヤンゴン中心部から 30 分ほどタクシーを走らせると、そこにはラオスと変わらない穏やかな田園風景が広がっていますが、言葉の点では日本やラオスよりも国際的に開かれた国なのだなという印象を受けました。

私たちは滞在中にミャンマーで活動する日本の NGO やミャンマー 人が運営している職業訓練センターを訪問するほか、ミャンマー第 2 の都市と言われているマンダレーの寺子屋、漆工房の連なるバガン にも視察に行ってきました。その中でも、職業訓練のニーズを感じ られたのがマンダレーの寺子屋でした。マンダレーで訪問したのは



顔にタナカという天然の日焼け止めパックを つけた生徒たち

Phaung Daw Oo (パウン・ダェ・ウー) 高校と呼ばれる寺子屋です。この学校では幼稚園から高校まで 6,000



人を超える生徒が学んでいます。学校の急成長にともない、大きな校舎と寮が建設されていますが、すべての生徒を教えるには教室数も教員数も足りていないようで、生徒たちは午前と午後の二つのグループに分かれて学んでいるそうです。寺子屋ということもあり、学校内には小さなお坊さんや尼さんの姿がたくさん見られました。全生徒数のうち約1,300人がお坊さんで約250人が尼さんだそうです。こちらの尼さんは頭を剃り、ピンク色の袈裟を着ていました。ラオスでは年配の方が尼さんになる姿をお寺でときどき見かける程度で、若者や子どもの尼さんを見たことがなかったのでとても新鮮

でした。また、ラオスではほとんど見かけませんが、中学・高校生くらいのお坊さんたちが校庭でサッカーを している姿も見られました。国境を接しており、且つ、同じ仏教を信じていても、慣習は国によって異なるの だなと感じました。

さて、このパウン・ダェ・ウー高校にはドイツの援助にて、中国製の家具製作・木工用の大型機械類が設置されていました。主に学校内で必要とされる学習机や椅子、ドアやドアフレームの製作を行っている他に注文はなさそうで、訓練はそれほど頻繁に行われている様子はありませんでした。学校としてはこれから中学・高校の授業の中に職業訓練を取り入れることを検討しているらしく、これらの家具製作・木工用の大型機械を十分に活用し、訓練・指導できる人材と実施予算を探しているようでした。当会が支援できることもありそうでしたので、継続的に連絡を取り合う約束をしてラオスに戻りました。(須田裕美)



寺子屋にいたピンクの袈裟を着た小さな尼さん





◆ <u>富永代表のタイ国サコンナコン県訪問記</u> ◆

ラオスのタイ大使館から、ラオスに近いタイのサコンナコン県の研修旅行に招待されて、各国の大使や国際機関の人たち総勢30人と7月26日~27日の1泊旅行に行ってきました。タイでは王族が財団を持っていて、農村開発、伝統工芸保存に寄与しています。私が1980年にタイに滞在した時にシリキット王妃の誕生会式典に招待され、タイのガールガイドと一緒に伺いましたが、何百人の招待者のお祝いはほとんどが現金でした。日本人としてはとても奇異でガールガイドの役員さんにお聞きしたら、現金を包んでも王妃財団が管理して、貧しい人や必要なプロジェクトにくださるので、ガールガイドも頂いているとのことで、納得しました。今回の旅も王妃の支援が村民の生活向上に大変寄与していました。

【写真 1、2】シリキット王妃助成財団が 1983 年に 設立した「クナカム村手工芸サポートセンター」

東北タイの村民の収入向上のために伝統陶芸の 職業訓練を実施しています。土は偶然に地元の土が 向いていることが分かり、約800度で焼いています。 テラコッタの伝統デザインの絵がらは有名です。











【写真3、4、5】「ノンルー村藍染織物センター」

ここでは村の主婦たちは木棉の木を育て、棉を取って糸にして(写真3)、それを藍染にして(写真4)、手織りにしてから、布地、ショール、バッグ、ドレス等に作成して販売しています。村は男女ともに藍染の服を愛用していました。リーダーの女性と村の女性たち(写真5)。ラオスでは天然の藍染の生地は入手が困難で、高くなっています。





【写真6、7】「王立プーパーン農業開発研究センター」

1983年に設立され、東北タイの土壌が農業発展のネックになっていたので、 現在では改良され、農民は高い収入を得ることができるようになりました。稲 作をはじめ新鮮な野菜、養魚や牧畜も盛んで、なんと日本のタジマ牛も飼育さ れていました。中国から輸入された黒鶏はタイの習慣から、美味しくても歓迎 されず、色を白にようやく改良しましたが、顔が黒いのでそれも好まれず、よ うやく金色の鶏に改良されて、順調の販売となったと、専門家が苦労話しをし てくれました。このセンターは 1500 ヘクタール以上の土地を所有し、14 の農 民グループで構成されていますが、ここで働く村民の1家庭の月収は1万バー ツ(約2万5千円)になるそうです。このセンターはタイの農民に研修を受講す ることを奨励して、研修が終わると、例えば魚の孵化の方法も習うので、無料 で稚魚をもらい、村に帰って養殖をすることができるとのことです。センター で試食させていただいた「ロンコン」(写真 7)はとても甘くて、ねばねばの汁も 少なく美味でした。漆科の果樹なので多少のべたべたは仕方ありませんが、ラ オスにはない果実です。土壌改良と自然肥料がいいのでしょうか。もっともこ のセンターには博士号を持つ専門家がたくさん働いていて、さすが王立、資金 が豊富なのでしょう。たくさんの職業訓練に良いアイディアをいただききまし たが、とてもNGOができるような規模ではないことを実感しました。

国内活動・アジア理解講座

~ラオス料理教室、ラオス語講座が IV-YUOTH の学生や、ラオス人留学生が主体となり行われました~

ラオス料理教室…2014年5月17日(土) 10:00~ 於;さいたま市立生涯学習総合センター 調理室

初めての文化講座は、講師としてラオス人留学生のノイさんをお招きして、料理教室を開きました。今回のメニューは、ラオスのバゲットサンド「カオチーパテ」とラオス風ぜんざい「ナムワーン」の二つ。普段、日本では使わない食材がたくさん出てきて、参加者のかたも「こんな 調理法があるなんて!」と驚いていらっしゃいました。またバゲットにかけるラオスの甘辛ソース「チェオ」は、材料の分量が決まっていなかったので、ノイさんに味をみてもらいながら作りました。おいしくておしゃれな料理が作れて大満足!な講座になりました。

○料理講師のノイさんより

IV-JAPAN のラオス料理教室に参加させていただき、非常に嬉しかったです。私はラオス料理を作れますが、いつも調味料を入れる時は、量らずに少しずつ入れながら、味見をして量を決めます。自分が好きな味までやったら、出来上がりです。今回のイベントに参加できて、本当に楽しかったです。料理教室に参加したのは初めてでした。皆様が材料や調味料を入れる時、もらった紙のとおりにちゃんと「どのくらい」入れるか確かめているのが印象的でした。何回やっても同じ味になるようにしているのだとわかりました。本当に勉強になりました。(左下写真右端)

<u>ラオス語講座</u>…2014年6月18日(水) 19:00~ 於;さいたま市立生涯学 習総合センター 学習室

第2回の講座は、二部制で行われました。第一部はラオス語講座で旅行に使える表現を、第二部は文化講座でラオスの世界遺産を紹介しました。 今回は、平日の夜ということもあって、学生からお仕事帰りの社会人の方まで、たくさんの方にお越しいただきました。

第一部のラオス語講座では、二人の留学生ターイさんとトゥミーさんに 講師をしていただきました。ターイさんは首都ヴィエンチャン、トゥミー



さんは中部サワンナケートの出身。声調が全く違うので、受講者のみなさんも驚き!ラオスでは、ヴィエンチャンの発音に合わせるのではなく、自分の出身地の方言を堂々と使いつづけるのが普通だと聞いて、日本と違うなあと感じました。講座では、宿の予約、市場での買い物の仕方(当然、値切り方も!)を教わりました。会話のスクリプトをペアで読んだり、単語を入れ換えて自分で文章を作ったりもしました。

第二部では、ラオスの世界遺産「ルアンパバーン」「ワットプー」をスライドを使って紹介しました。

(東京外国語大学 光成奈々子)

ສະບາຍດີ

ラオス語&ラオス文化講座に参加して

ສະບາຍດີ ບໍ



2年前に仕事でラオスに3ヶ月滞在し、人々の温かさや素晴らしい風土に触れてから、すっかりラオスにハマってしまった一人です。そのようなおり、今回のラオス語&ラオス文化講座に出会い、参加させていただきました。

ラオス語に関しては、読み書きはまったく出来ず、簡単なフレーズを覚えて会話のなかで使う程度の私でしたが、今回の講座ではカタカナ付きの文字テキストを用意していただき、とても分かりやすい内容でした。特に、講師の方々が親しみやすく、かつ、発音なども丁寧に教えていただいたため、和やかな雰囲気で学ぶことが出来ました。また、文化講座では、今回のテーマの世界遺産にはラオス滞在中に訪れたのですが、「行く前に聞いていればよかった」と後悔するほど、たいへん詳細に教えていただきました。

講座中は終始楽しく過ごせ、次回も是非参加させていただきたいと思います。今後もラオスに関しての様々な国内活動に期待しております。

(梨木義春・写真左端 ラオス料理教室参加時)

カノツク奨学金ドナー紹介

長年当会の活動にご協力いただいている多数の皆様の中から3名の方のお便りをご紹介いたします



謝花 恵子(沖縄県那覇市在住)

新聞記事がきっかけで、IV-JAPAN の活動を知り、「アジアの貧しくて学校に行けない子ども達」 の存在を意識しはじめました。旅行が好きな私は、訪れたタイやバリ等のアジアの多くの子ども達 がお土産等を売ったり物乞いをしたりするのに接していましたが、それまでは「奨学金ドナーになる」ということを考えてもみませんでした。私がちょっとしたショッピングや飲食をする金額で1年間、一人の子どもが学校に通う事が出来る。私にも続けられそうだと思い、奨学金ドナーとなりました。子どもが学校へ通い、学ぶということは、知識を身につける、成長するためだけではないというこ

と。貧しくて学校へ通えない子ども達にとっては「生活の糧を得るためのチャンス」であるのだと。貴会からの会報誌や子ども達からの手紙でもそれを知る事が出来ました。

私事ではありますが昨年末に退職し、今まで会社員として定収入のあった身から50代で無謀にもフリーランスとなりました。近年は2名様分の寄付をさせて頂きましたが、今年から当分は、厳しい状況なので1名様分の寄付とさせて頂きたいと思っています。ちょっと辛い決断ではありました。でもその分、これから頑張って稼ぎ、今まで以上に寄付出来るように目指していきたいと思います。

今の私の気持ちとしては、ラオスやタイの子ども達、職業訓練を受ける人たちと同じスタートラインに立っている感じです。あの子達が、彼等が頑張っているのだから、私も見習って奮起したいと思います。

末尾となりましたが、IV・JAPAN 様のこれからのご活躍、より多くの方々が賛同されてドナーとなり、多くの笑顔へと発展することをお祈り申し上げます。



奈良 伊世(北海道旭川市在住)

— Can I help you?— 『1 日 28 円の援助でタイの農村の子が中学校へ通える』。私でもドナーになれるのでは?当時からアフリカや世界各地の貧しい子供たちをサポートする活動はありました。私はアジアの子を無理なく長くサポートできるものはないかと思っておりました。そんな時、前記の新聞記事に出会ったのです。

「国際ボランティアの会」ガールスカウトの団体が母体。冨永代表の会の「カノック 奨学金」でした。最初の頃は1~2人の子を2~3年継続してサポートするという条件だったような気がします。 女の子かしら?男の子?何歳の子?と、お手紙が届くのを楽しみにしておりました。今もワクワク感は同じです。添えられた写真の少年少女はどの子もきりっとした眼差しで、凛とした表情をしていました。この子たちが次世代を支えるのだ。その子達を育てるささやかなお手伝いができるのでは?そんな思いでドナーを続けてまいりました。

いつかワークキャンプに参加してみたいと思っていましたら、仕事、夫の病気続き、叶わぬ夢のまま年を重ねて 73 歳になってしまいました。今は年金暮らしのメリーウィドウ! 生きている限りドナーを続けていくつもりです。義母が言っていた「貧者の一燈」になれば幸いです。



沖野 和利 (静岡市在住)

私たちは普段どうしても自分の周辺の事のみに捉われた生活をしがちですが、今日これだけグローバルな思考や物流が浸透して来ている今、全地球的な見方・捉え方が一人ひとりに求められていると思います

世界ではそれぞれの国々に多様な問題が噴出して、それらは決して他人や他国の問題としてではなく、私達一人ひとりの己れ自身の問題として共に悩み、共に悲しむべきであろう。

それがこうして同時代を生きている私達の責務だと思います。私達は決して孤立無縁に在るのではなくすべて繋がりの中に在るのです。生命あるものは皆元を辿れば同じ所から出発しているのですから。そういう繋がりや絆を育む一環として長い実践と実績を積んでいる IV-JAPAN はアジアや世界に誇れる存在でしょう。それもこれも現地や当事者の方々の並々ならぬ努力と汗の賜物だと思います。スタッフや皆様の日頃の尽力に感謝したいと思います。

IV-JAPAN新理事、新顧問紹介

2014 年度より IV-JAPAN の理事、顧問に就任された方々をご紹介させていただきます 皆様どうぞ宜しくお願い致します



上田義朗理事

2001年に JICA 短期専門家として初めてラオスを訪問しました。

それ以来、ラオスの魅力から逃れることはできません。当時のラオス国立大学経済経営 学部の若手教員が今では立派な先生として活躍しています。彼・彼女から元気をもらっ ています。人材育成の仕事では、これが最大の楽しみだと思います。

ますますのラオスと IV-JAPAN の発展を祈念しています。

微力ながら協力をさせて頂きたいです。



大河内啓市理事

代表の富永さんとの 30 年来のご縁で IV-JAPAN に入会させていただきました。私は 20 代よりボランティア活動を続け、代表との出会いもその頃でした。国際交流に興味を持ち、グアムとの交流を続けるうち 2000 年 6 月にグアム知事より親善全権大使を任命されました。その後、毎年グアムとの親善交流を続け、小学校との交流、慰霊塔への供養訪問等を行っております。昨年で 10 周年を迎えた今、さいたま市とグアムの友好都市実現に向け頑張っております。今年グアムにご一緒しませんか?宜しくお願いします。



利根川恵子理事

この度理事に就任させていただきました利根川恵子です。冨永幸子代表とは、旧大宮市(現さいたま市)で、私が教育委員会の帰国子女教育担当、冨永代表が「帰国子女保護者会」の会長というご縁で、約35年のお付き合いになります。冨永代表が、IV-JAPANを設立されてからは、奨学金のドナーとして細々と支援させていただいておりました。今後は理事として一歩踏み込んで、IV-JAPANの発展にお役に立てるよう頑張ります。また、私自身もワイズメンズクラブ国際協会の一員として社会奉仕をしておりますので、同じ国際団体として協働することも楽しみにしております。



新藤享弘顧問

新藤旧大宮市長は 3 期 11 年間の長きにわたり大宮市長を務め、種々のボランティア活動も熱心で大宮市民に慕われた市長さんでした。私が大宮市帰国子女保護者会の会長時代にお世話になり、大宮の馬宮に多く在住したラオス難民に大宮西ロータリークラブを通して支援してくださいました。IV-JAPAN を創設してからは、大宮市の放置自転車をラオスに贈る運動にも大変ご協力をいただきました。新藤氏のお母さまは大宮の飯田の冨永家のご出身で、当時私は飯田に住んでおりましたので、とても親近感を覚えました。この度当会にとっては地元の最高の知名人に顧問をお受けいただき当会のステータスも高くなることと思います。感謝にたえません。(冨永記)



横田順子顧問

昨年 10 月に 3 年余を過ごしたラオスから帰国し、11 月に外務省を退官しました。ラオスは私にとって、42 年間の外務省勤務の中で最後の任地となりましたが、本当にやりがいのある仕事でした。JICA を始めとする政府機関のみならず、様々な NGO・NPO の皆様がラオスの発展のために尽力されている姿を間近に拝見できたことは大きな収穫であり、私にとって大きな励みでもありました。これからも皆さんの活動に何らかの形で関われることを嬉しく思っています。

(編集部注:横田氏は世界の194ヶ国(2013年7月現在)の日本大使の中でもたった2人の女性大使の1人で、ラオスでは流暢なラオ語を駆使して大活躍でした。)

千客万来

【茗溪学園中学校高等学校スタディーツアー】2014年5月7日



旅行会社の HIS ラオスを通して、茗溪学園から高校生 6 名引率者 3 名の合計 9 名様にご訪問いただきました。将来は国際的な仕事につきたいと考えている生徒さんも多く、プレゼンテーション後は積極的に質問されたり、当会の冨永代表の経験談に一所懸命に耳を傾ける姿がとても初々しく、無限の未来が待っているその若々しい様子がとてもまぶしく見えました。当会の活動が少しでも彼女たちの未来の夢へのヒントになるといいなと願っております。

【埼玉 NGO ネット事務局長加藤様・ご友人桂様ラオス視察】2014年7月1・2日

当会の国内業務に多大なるご尽力・ご助言をいただいている、埼玉 NGO ネット事務局長の加藤様と、そのご友

人の信州大学・大阪府立大学名誉教授の桂様お二人が、当会のプロジェクトの視察にいらっしゃいました。ナーサイトン事務所/職業訓練センター、IV-JAPAN事務所、OJT 第1・第2店舗、そして新しく始まった木工事業の事務所/職業訓練センターのほか、起業した卒業生の所も数名訪れました。ご帰国後、「大変興味深い経験ができ、有意義な機会を得させていただきました」とのお言葉をいただき、当会としてても活動について一人でも多くの方に知ってもらうことができたことを、嬉しく感じました。



【International Women & Family Foundation】2014年7月24日



韓国の国際協力団体 IWFF (International Women & Family Foundation)より3名の方々がラオスでの支援を始める調査のため OJT2 を訪問されました。当日は、OJT2 にて松花堂弁当を召し上がっていただき、訓練生たちの働きぶりを見学、その後 IV-JAPAN に関するプレゼンテーションを実施しました。プレゼンテーションの際には、熱心にメモを取られながら、「どうやって、訓練生を募集しているのか」や「就職先はどのように見つけているのか」など、プロジェクトの運営方法に関することを中心に質問いただき、冨永代表より持続的な運営のための取り組みについて回答しました。IWFF 職員の方からも仕組み作りが非常によくできていると賛辞を頂き、貴重な意見交換の場となりました。

【インターンシップ報告】2014年7月21日~7月29日

インターンシップの長谷川と申します。私は東京外国語大学・ラオス語専攻を卒業しており、元々ラオスでのNGOの活動に興味をもっておりましたが、埼玉県主催のアジアフォーラムという講演会で冨永代表にお目にかかったのをきっかけに、約1週間ラオス事務所での活動をお手伝いさせて頂いておりました。期間中、各拠点を拝見させて頂きましたが、どの場所でも訓練生の方々が楽しそうに取り組んでいる姿が印象的でした。特に OJT2(上級コースのお店)では、トレーナーも訓練生も自分の技術に自信を持って励んでいるように見えました。私が穴の開いたカバンを直すため針と糸を借りようとすると、訓練生の方が「直すなら、綺麗にしたい」と、わざわざカバンと同じ色の糸を探してきて、ボビンに巻き直し、待ち針を使って非常に丁寧に縫い直してくれたのです。ラオス人特有の謙虚さがあるので、なかなか表には出しませんが、技術だけではなく



精神的にも成長されているのだと思います。今後も職業訓練コースで学び、技術も自信も兼ね備えた卒業生たちがラオスの発展を支えていくことを期待しております。(写真右筆者、左 0JT2 マネージャー・ノイさん)

幸子のラオス便り10.27

「最近のラオスの若者」

日本のアニメや J-POP などがラオスですごい人気で、日本大使館主催で「クール・アンド・かわいい・ジャパン 2014」が開催され、ラオスの若者が2000 人も参加しました。日本留学生会や日本語学科の学生始め、若者が手作りのアニメ衣装とメークアップで闊歩しています。「かっこいい」とか「かわいい」がトレンドなのでしょうか。日本の若者と比べるとどこか幼い感じもしますが、控え目なラオス人が思い切り自己表現ができる場にもなっているようです。ラオスでは韓国の K-POP に押されぎみでしたが、日本の J-POP を 5 人一組が踊るコンテストをしたところたくさんの応募グループでにぎわいました。アニメの人気と相まって、すごく盛り上がりました。

毎年2月14日のバレンタインデーは町中に赤い バラの花屋の屋台が出て、買っていく若者でにぎわ っています。今年の新聞ではバレンタインデーの警 告として「セックスより愛を」という記事が第一面 に掲載されていました。バレンタインデーが近づく とヴィエンチャンのユースセンターの電話相談で は、通常の2倍の毎日300通を超える電話がかかり、 だいたい 15歳~24歳くらいの女性で、殆どの内容 が「バレンタインデーにボーイフレンドからセック スを強要されるのが悩み、どう対処すればよいか」 という質問が多いとのこと。ユースセンターではバ レンタインデーは特別な日ではないから、安易にセ ックスをしない、婚約か結婚まで待つこと、感情に 走らないことなどをアドバイスするそうです。望ま ない妊娠や性病の予防のためにも、きちんと安全な 方法を取るようにと。ラオスでは学校で性教育はな されてないので、性教育の必要性をカウンセラーは 感じているようです。

また、ラオスでは若者のドラッグ(いわゆる麻薬の錠剤ですが)や売春が大きな社会問題となっています。1錠のアンペタミンが約300円前後で買えますので、若者でも簡単に、買うことができます。

若者の就職や進学が難しく、受け皿がないことにも 起因していますが、何もできなくてぶらぶらしてい る若者が多いです。それで職業訓練が重視されてい ます。

私の団体では調理、理美容、縫製、木工家具の職業訓練をヴィエンチャンの 4 カ所で運営していますが、地方から出てきた、(だいたい 15 歳~20 歳くらいの少女が多いのですが)、訓練生は寮に入ります。寮にボーイフレンドを連れ込んだのが見つかって退学になった少女や、最近ではボーイフレンドとゲストハウスに行って、ドラッグを飲まされて、意識不明になり、救急車で病院に運ばれ、一命を取りとめた少女もいます。

ドラッグ服用は法律で禁止されているので、見つ かるとドラッグ・リハビリテーション・センターに 最長3年間収容されます。そこでは男性棟と女性棟 に分かれて収容されていますが、刑務所と変わらな いような感じで、塀の外に自由には出られません。 お金も所内だけで通用するチケットが使用されて いて、売店で食料や生活必需品を買うことができま す。2008年~2010年の3年間の記録では、4151人 が収容され、内、約6%の233人が女性です。私ど もの訓練所で模範女性患者(センターでは患者と呼 びます)を3名受け入れたことがあります。センタ 一では職業訓練を取り入れて社会復帰を容易にし たいとのことで、調理、縫製、理美容のトレーナー を育成してほしいとのことでしたが、2名は途中で 逃げて行方が分からなくなり、最後の一人は上級ま で進級して期待していたのですが、再びドラッグを 飲み始めて、センターへ収容されました。いったん ドラッグを始めると抜けるのが難しく、また、売人 もどこまでも追いかけてくるので、一家で転居した 話も聞きます。

最後に自宅の夜警についてお話しします。彼は 20歳、昼間は電気工事屋で働いていて、夜間の電 気技術短大に通っています。学校が終わると夜の8







時過ぎに我が家へ来て夜警の仕事をして、朝の 7時には帰ります。夜警といっても寝るだけですが、1日に3つも仕事を持っている働き者です。日曜日は自宅で農業や養魚に専念し、それを売って収入にしています。両親はいないので3人の姉と住んでい

ますが、たった一人の男子ですので、農業も養魚も 彼一人の労働で一家を支えています。お酒も飲みま せん。ラオスの若物は昼間働いて、夜間の大学に行 く人が多いです。こういうまじめな若者もいること をお伝えしたいと思います。

報告 & お知らせ

埼玉県指定 NPO 法人取得

指定 NPO 法人とは一定の基準に適合する NPO 法人を県が条例で個別指定する制度ですが、IV-JAPAN では昨年の 11 月に申請し、埼玉県議会の承認を経て 2014 年 7 月 15 日に公布されました。

条 例

埼玉県指定特定非営利活動法人を指定する条例の一部を改正する条例をここに公布する。 平成26年7月15日 埼玉県知事 上 田 清 司

埼玉県条例第39号・・・(省略)・・・本則の表に次のように加える。

7 特定非営利活動法人 国際協力 NGO・IV-JAPAN 埼玉県さいたま市大宮区三橋 2 丁目 545 番地

埼玉県さいたま市大宮区三橋 2 丁目 545 番地 シティヒルズ 101

<寄付金控除について>

- 1、控除を受けることができる方…寄付をした翌年の1月1日現在、*埼玉県に住所を有する方。*
- 2、控除額…(寄付金額-2千円)×4% (100円未満切り捨てで、上限があります)
- 3、控除の手続きについて…①市町村への申告・市町村へ寄付金控除の申告をしてください
 - ・指定 NPO 法人への寄付金控除は所得税が対象になっているため確定申告で控除を受けることはできません。但し認定 NPO 法人でもある場合は、確定申告で控除ができます。
- 4, <u>申告に必要な書類</u>…寄付金受領証明書(IV-JAPAN が発行したもの)

かざして募金

ソフトバンクモバイルでは企業活動を通した社会貢献の一つとして、携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるアプリケーション「かざして募金」の提供を開始しました。「かざして募金」はアプリケーションをインストールしたスマートフォンを、対象となるポスターやチラシなどにかざすだけで継続して寄付ができるサービスです。 IV-JAPAN はこの制度への登録手続きを行っています。登録後改めてお知らせいたします。下記 URL に詳細が記載されています。または IV-JAPAN までお問合わせください。

http://www.softbank.jp/corp/csr/donation/instance_01/



*ソフトバンクホームページより引用

ACT「アジア留学生インターン妥入れ助成プログラム」

IV-JAPAN は今年、公益信託 アジア・コミュニティ・トラスト (ACT)にアジア留学生受入れ希望団体登録を行い、先日申請が承認されました。早速8月下旬より1か月半の期間、週3日程度中国人留学生(男性・26歳)がインターンとして東京八王子からIVの日本事務局へ通い、IT関係やイベントの企画・出店準備・実施、広報活動業務等を行います。現在事務局ではインターン留学生受け入れ計画書を作成中ですが、大いにIVに貢献してくれることと思います。

●2014 年度ラオス・スタディツアー参加者募集中!

世界遺産の町ルアンパバーンとラオスの首都ヴィエンチャンを訪問予定。IV-JAPAN の職業訓練所訪問やヴィエンチャン市内観光、タートルアン大祭など

1. 期 日 2014年10月31日(金)~11月7日(金) 7泊8日

2. 募集人員 10 名 (人数が集まり次第締め切らせていただきます)

3. 参加費用 174,600 円 (往復エコノミー。ホテルは 2 人 1 部屋使用の 1 人料金で 8 名参加の場合。食事、

日本語ガイド、車付き)参加人数や一人部屋宿泊により料金が異なります。

(問い合わせ先): IV-JAPAN 日本事務局(連絡先は下記参照)

企画:認定特定非営利活動法人 国際協力 NGO・IV-JAPAN

手配: (株) ジャンピング・ツアー (東京都知事登録旅行業代理業 11198号)

--順不同·敬称略---

♡ ♡ カノック奨学金ドナー紹介 ♡ ♡ (2014/4/1 から 2014/7/31 まで)

飯田昌美、宮川正孝(3口)、田中兼勝、荒井みど里、泉 久子(2口)、高田久雄、中村英一、濱口敏行(3口) 高石順子、嘉数和子、土屋多賀子、福永文代、渡久地澄子(5口)、佐藤美津子(2口)、田村福代、栗林トセ(4口) 富井伊都子、和田冶江、河島一郎、河口道子、熊野澄子、又吉ミチ、大高 巽、岡庭史子(2口)、岩月優子

●運営・プロジェクト費寄付者一覧

(2014/4/1 から 2014/7/31 まで。5,000 円未満は省略させて頂きます。ご了承下さい。)

(有) イチカワ北海食品(1万円)、松崎峯子(1万円・内5千円はフィリピン災害寄付)、高石順子(8千円) 臼田玲子(\$30)、HIS ラオス(9千円)、大高 巽(8千円)、泉 久子(6千円)、北條鎮雄(5千円) 飯村 浩(423万1千 kip+2万6千 400円)、JMAS(30万 kip)

<編集後記> ~事務局員の独り言~

外では普段めったに腹を立てることのない私ですが、先日近所のスーパーの店員の不親切さが逆鱗に触れ (辰(龍)年ですので)、それを店側に訴えました。自分でも驚き! 詳細ははしょりますが、その時感じた事「たまには怒っても良いのだ。それによって事が好転することもあるのだ」と言う事です。平和主義(狭小的な)を自認していた私ですが、そればかりでは世の中成り立たないと、大層な結論へ至ったのです。

余談はさておき、今号もそうですが、「IVNEWS」毎号ニュースが満載で事務局員も一読者になった ↓ 気分で楽しんでいます。特に「幸子のラオス便り」はNHKラジオ深夜便で放送された内容が大半ですが、五感がすっかり無防備状態の時間帯で聞き逃している身としては、紙面でその面白さを味わえる事うれしく思います。ラオスも暑いですが、日本も猛暑の日々どうぞ皆様くれぐれもご自愛ください。(事務局 井藤)

<随時会員を募集しています>

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆様のご協力を宜しくお願い致します

① 奨学金ドナー 年1口 12.000円以上

② 国際協力費又は運営費ドナー ★個人 年1口 3.000円以上 ★団体及び法人 年1口 10.000円以上

・申込方法(銀行振込の場合は振込された方の<u>氏名と会員番号の下4桁の明記</u>をお願い致します)

郵便振替 : (口座番号) 00140-5-537168 (加入者名) IV-JAPAN

銀行振込 :埼玉りそな銀行浦和中央支店 (※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。)

(普通) 口座番号:5038052 名義人:(特非) 国際協力 NGO・IV-JAPAN

日本事務所

〒330-0856 埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2 シティヒルズ 101

TEL:048-622-8612 / FAX:048-622-8612 E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp http://www6.ocn.ne.jp/~iv-japan/

タイ事務所

GGAT 5/1-2 Phayathai Rd., Rachathewi,

Bangkok 10400 Thailand

E-mail: valaikorn@hotmail.com

ラオス事務所

P.O Box7920 Vientaine, Lao PDR TEL/FAX: +856-21-316047 携帯電話; +856-20-55515122 E-mail: ivjapan.vte@gmail.com

フィリピン事務所

112 A. S. Fortuna St. Bakilid Mandaue-City Cebu Philippines

TEL:+91-53-407-716

E-mail:ivjapan.ceb@gmail.com